



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカワーキンググループ

NO.26

知床半島におけるエゾシカの管理に関する検討を行うため「エゾシカワーキンググループ」会議が開催されました（第1回：2023年6月19日、第2回：2023年11月27日）。

TOPIC 1

知床岬のエゾシカ対策について議論を行いました

エゾシカワーキンググループ会議では、知床岬のエゾシカ対策強化に向けた議論を行いました。

2020年以降、知床岬で越冬するエゾシカの頭数が多くなっていることが確認されていることから2021年より夏期の捕獲事業を実施し、これまでの3年間で94頭（内メス成獣44頭）を捕獲しました。シカの数減らすには、一般的に子を産むメスを捕獲することが特に有効であると言われています。



▲ 知床岬で越冬するエゾシカの群れ



▲ ブラインドの中でエゾシカを待つ射手

効率的にエゾシカを捕まえるためには？
ヒグマから身を守るためには？
現地での検討を重ねながら取組を進めています

2023年2月の航空カウント調査結果から、依然としてエゾシカの発見密度が高い状況であることがわかっていますが、長年にわたる捕獲の取り組みのおかげか、自然植生に対するシカの食害が急増

するような状況は確認されていません。このような状況の中、2023年6月にシカの捕獲を行っていた作業員がヒグマに襲われて負傷する事故が発生しました。知床岬はヒグマが高密度で生息する地域であるため、安全かつ効率的にシカを捕獲する方法を確立する必要があります。これまでの調査で得られた季節毎のシカの行動パターン等のデータも参考にしながら、知床岬の新たなエゾシカ対策方法の検討を進める方針を確認しました。

TOPIC
2

高山域の植生調査の結果、気候変動によると考えられる影響が確認されました



▲ 羅臼岳山頂下に広がるハイマツ

世界的に温暖化や少雪などの気候変動が注目されている中、知床連山において高山植生の調査を行いました。この調査は、エゾシカによる被害が高山域でも過剰に増えていないかという点と、高山植物などに変化が確認された場合、それが気候変動による影響かどうかを確認するために、2012年以降、おおよそ5年間隔で継続的に行われているものです。2012年の結果と比較すると、エゾシカによる影響は大きな変化が確認されていない一方、ハイマツやミヤマハンノキが増加している傾向があることが分かりました。このうち、ハイマツが増加する要因には、気候変動（温暖化）による少雪や成長期間の増加などが要因の一つであることが知られており、大雪山など国内の別の高山域でも同様の状況が確認されています。

知床連山では昨年より、地温を1年中、連続して測定することで高山域の積雪期間の把握を試みるなど、新たな調査も始めています。これらのデータも参考にしながら、気候変動の兆候を捉え、世界自然遺産としての価値への影響をモニタリングしていく方針です。



ハイマツの実（松かさ）はホシガラスやギンザンマシコ、ヒグマなど知床に生きる多くの生き物の糧となっています



一方でハイマツのような低木の勢いが増すと、小さい草花の中には減ってしまう種もあります

会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら

<https://shiretokodata-center.env.go.jp/>

■ 問い合わせ先 ■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階